

農林水産委員会

本県農林水産業の今後の展望は  
ブランド戦略を推進する

**問** 新しい茨城農業改革大綱を策定中と聞いているが、本県の農林水産業の今後の展望をどのように考えているのか。

**答** 今後は、人口減少などによる食料需要の減少や産地間競争の激化が予想されることから、消費者の目線に立ったブランド戦略を進め、「人と産地が輝く、信頼のいばらきブランド」を目指していく。



消費者の目線に立ったブランド戦略を推進

**問** 日本穀物検定協会によるコメの食味ランキングについて、本県では平成十九年から特A評価が取得できていないが、その要因と対策は。

**答** 要因は、炊飯時のツヤ不足と聞いているが、温暖化の影響も考えられる。本県では平成二十五年度から技術改善に取り組み始めたところであり、今後はさらなる対応策を検討し、特A評価の早期取得を目指していく。

**問** 農業のグローバル化に対応するため、産学官連携などにより、ICT農業県を目指すべきと考えるが。

**答** 水田農業では、水位管理や収量の自動測定の実証を行うなど、農業の低コスト化の実現に向け、ICT活用の取り組みを支援する。また、つ

くば市にある農業・食品産業技術総合研究機構と定期的に意見交換を行っているところであり、こうした筑波研究学園都市の優位性を最大限生かしながら生産性の向上などを図っていく。

**問** 本県水産物の輸出の現状と今後の取り組みは。

**答** 平成二十六年の本県水産物の輸出額は、冷凍物を中心に約三十一億円と推定されている。今後は、冷凍物のほか、加工品や霞ヶ浦のワカサギなどの鮮魚も含め、新たな輸出品目を発掘し、輸出の拡大に努めていく。

(ほかに、関東・東北豪雨における被災農地の集積促進、TPP協定による本県農林水産物への影響額なども質問)

土木企業委員会

東関東自動車道水戸線の  
進捗状況は  
用地の取得が進み、  
全線で工事に着手している

**問** 東関東自動車道水戸線の潮来ICから茨城空港北IC間の進捗状況は。

**答** 潮来ICから(仮称)鉦田IC間は、国土交通省が八割近くの用地を取得し、平成二十七年年度に工事に着手している。また、(仮称)鉦田ICから茨城空港北IC間は、東日本高速道路(株)が九十八%の用地を取得しており、全線で着工している状況である。

**問** 平成二十八年度当初予算案における県全体の国補公共事業費は、前年度に比べ約三百八十二億円の減などとなっているが、土木部の状況は。

**答** 土木部における直轄事業については、圏央道の負担金が減少したために約八十億円の減となっている。また、県単公共事業費については、道路緊急修繕や河川の減災対策などのため、前年度より約十六億円の増額となっている。

**問** 県道大洗友部線の茨城町海老沢から駒場までの一部区間は、歩道が無く狭隘である。また、中学校の通学路である。この区間の整備は計画されているか。

**答** 小学校の通学路に指定されている区間はおおむね歩道

を設置済みであるが、その他の区間については歩道がないなど、将来整備が必要な区間もある。ほ場整備事業と併せた用地の確保について町の意見を聞き検討していく。

**問** 河川緊急減災対策事業における土砂などの撤去の判断基準と今後の進め方は。

**答** 河道断面のうち三割程度以上の土砂などの堆積を撤去する基準としており、調査の結果、緊急的に対策を要する箇所は九十箇所となっている。平成二十八年度は、このうち三十箇所の対策を行う予定であり、今後の三年間で実施する計画となっている。

(ほかに、三の橋架け替え工事の今後の進め方、鮎川停車場線の整備状況なども質問)



茨城空港北IC(茨城町)付近の整備状況(東日本高速道路(株)提供)

文教警察委員会

交通安全対策にどのように  
取り組むのか  
高齢者への交通安全教育や  
取締りの強化に努める

**問** 交通死亡事故が多発しているが、交通安全対策にどのように取り組んでいくのか。

**答** 高齢者や子供、運転者などへの交通安全教育に力を入れ、悪質・危険な運転者への取り締まりを強化するとともにシートベルト着用など、県民のルール意識を高めていく。また、通勤時間帯の制服警察官の立哨活動など、県民が安心を感じるような活動に取り組んでいく。

**問** 今年五月に開催されるG7茨城・つくば科学技術大臣会合においては、警備対策が重要となるが、どのように取り組んでいくのか。

**答** 会合の円滑な進行のためには、テロの未然防止と国内要人の安全を確保する必要があり。そのためには、つくば市民や県民などの理解と協力が不可欠である。警備への協力についてあらゆる広報媒体を活用し情報発信を行っており、会合の成功に向け警備の万全を期す。

**問** 高校生による県議会傍聴は大変良い機会と考えるが、学校での教育にどのように生かしていくのか。

**答** 地域の問題について県議

会でどう議論されているのかを直接聞くことは良い経験であり、学校に帰ってからもう一度考えることが大切である。今後ともより良い効果が出るよう工夫していく。

**問** 今年度の県立高校の志願状況を見ると、著しい定員割れが生じている学校もある。このままでは地域から高校がなくなるのではと危惧するが、今後、どう対応していくのか。

**答** 学校は地域の文化や産業を継承していく上で極めて大切であり、今後とも、地元と連携しながら学校の魅力を発信するなど、学校の活性化を図っていく。

(ほかに、職業教育の充実、警察犬の積極的な活用に向けた取り組みなども質問)



高齢者を対象とした交通安全講習会の様子